

# 令和2年度 学校評価 学校関係者評価書

学校名	三木市立東吉川小学校
-----	------------

## 1 学校教育目標

(1)学校教育目標	未来夢みて 共に学び続ける 元気な子の育成 ( 校訓： 考える子 思いやる子 元気な子 )
(2)目指す児童像	心豊かに主体的に行動する児童
(3)目指す教師像	子どもや学校・地域を愛し、人間味あふれ、家庭や地域から信頼される教師 豊かな発想を持ち、常に自己研鑽に努める教師 教師としての使命感を持ち、強い情熱を持って教育に臨む教師 子どもとの心のふれあいを深め、内面を理解する人権尊重の精神をもつ教師

## 2 本年度の重点目標

(1)職員研修の充実を図り、教師としての力量を向上させることで、児童の思考を深める授業を創造する。
(2)学ぶ楽しさ、かかわる楽しさを仲間と共有できる学校風土を醸成する。
(3)保護者・地域指導者・関係機関等と連携して、ふるさとを愛し、誇りに思う人づくりを進める。

## 3 自己評価結果（達成状況）【 A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない】

評価の観点	評価項目（取組内容）	取組（達成）の状況	評価	改善の方策
学習指導	<p><b>●確かな学力を育成する 学習意欲の向上や学習習慣の確立</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が自ら進んで学びに向かう力の育成</li> <li>少人数を活かした取組や細やかな指導による基礎学力の向上</li> <li>学校生活全体を通じた言語活動の推進</li> <li>一人一人の思考を深めるための授業づくりの推進</li> <li>家庭と連携した読書習慣の確立を図る取組の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート・プリントやタブレットを活用し、基礎基本の定着を図るとともに課題の設定や発問の工夫等により学ぶ意欲が高まるよう授業づくりを進めた。</li> <li>授業や朝会発表・集会において、伝え合う場を意識して設定し、掲示板交流による対話の力をつけるよう努めた。</li> <li>学年ごとに話す・聞くときの目標を毎月設定し、言葉や姿勢などの定着を図るとともに、授業での対話を促す言葉がけを意識し対話の力を高めていった。</li> <li>感じたことや学んだことをふり返ることで、思考を深めることができた。</li> <li>読書ファイルや親子読書の取組の継続と委員会活動や図書館と連携した取組を進めた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>めざす子どもの姿をより具体的に意識するとともに、学習の振り返りや評価を活かし、児童が自ら進んで学びに向かう力を育成する。</li> <li>朝会発表の内容やホワイトボードの活用等、新しい生活様式に応じた対話の方法を工夫することで、対話力を高める。</li> <li>カリキュラムの改善やタブレット等の活用により、より細かな個に応じた指導を進める。</li> <li>読書の取組の継続と変化のある活動を進めるとともに、家庭での読書推進の工夫を行うことで読書習慣を定着させる。</li> </ul>
道徳・人権教育	<p><b>●自他の生命を尊重する道徳的実践力や豊かな人権感覚の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別の教科道徳の年間カリキュラムの実施と改善</li> <li>兵庫版道徳教育副読本を活用した親子話し合い活動の推進</li> <li>人の生き方に学び、自尊感情や人権感覚を養う活動の充実</li> <li>学校と家庭が連携しながら、自分や他者を大切にすることの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間カリキュラムを見直し、特別の教科道徳の教科書やノートを活用した授業を行った。</li> <li>親子で話し合いができるよう、常時兵庫版道徳教育副読本や道徳の教科書を持ち帰らせた。</li> <li>コロナ禍で体験・交流活動に制限がある中、工夫をしながら地域の方々や老人クラブ・こども園との活動を継続し、様々な人と関わる「楽しさ」「喜び」を味わわせ、温かい人間関係づくりに努めた。</li> <li>スマイル班（異年齢集団）活動・ぼっかぼか週間（人権集会・人権の花「良いところ見つけ」交流・親子ふれあい道徳授業）等を通して、自分や他者を大切にすることの推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラムの見直しや授業づくりの改善を継続するとともに、道徳性を養うことにつながる評価の在り方について研修を深めていく。</li> <li>学校と家庭が連携をより深めて親子話し合い活動を充実させていけるよう、兵庫版道徳教育副読本や道徳の教科書の活用を継続する。</li> <li>温かい人間関係づくりをめざした体験・交流活動となるよう工夫するとともに、事前・事後の指導を充実させる。</li> <li>年間活動計画を見直し、スマイル班活動・ぼっかぼか週間を活かした仲間づくりを推進していく。</li> </ul>
生徒指導	<p><b>●自己肯定感をもち、自分の居場所が実感できる支援体制の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ、問題行動、不登校の未然防止や早期発見・早期対応に向けた実態把握や児童理解の推進</li> <li>あいさつの意識づけと生活リズムを見直す指導の工夫</li> <li>児童・保護者、担任、スクールカウンセラー等が連携した体制づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎学期いじめに特化した生活アンケートを実施し、実態把握後、児童との面談の機会を持ち、いじめの未然防止や児童理解に努めた。</li> <li>気持ちの良い挨拶について取り上げ、全校で共有する機会を持つことで、意識して挨拶をする児童が増えてきている。校外でも進んで挨拶できるよう指導に努めた。</li> <li>生活リズムカードの内容を生活習慣に特化させ、生活リズムの改善を図った。年間を通して掲示し、保護者とも連携しながら取り組んだ。</li> <li>校内での定期的かつ日常的な児童の情報交換に加え、保護者・関係機関とも連携を密にし、問題行動の早期発見・早期対応に努めた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校いじめ防止基本方針を見直し続け、今後も職員一丸となり、いじめ未然防止・早期発見に向けた取組を進める。</li> <li>校外でも気持ちの良い挨拶を進んでいけるように、家庭や地域の協力を得ながら指導を継続していく。</li> <li>児童の実態に応じた生活リズムカードとなるよう見直し、引き続き家庭・地域と連携して取り組む。</li> <li>今後も日常的な児童の情報交換を大切に、児童理解を深めるとともに、生活アンケート等を効果的に活用し、個々の実態把握のもと、適切な支援体制を推進していく。</li> </ul>
特別支援教育	<p><b>●一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別な支援が必要な児童についての実態の把握と適切な指導、必要な支援のあり方を全職員で共通理解</li> <li>保護者や関係機関との切れ目のない連携を図った支援体制の推進</li> <li>一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育に関する教職員研修のさらなる充実</li> <li>交流学習やユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援の必要な児童について、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」をもとに、個々の児童の課題や教育的ニーズについて、日常的に全教職員で共通理解を図った。</li> <li>就学前から中学につながるように、校内外において定期的に児童の情報交換を行い、効果的な支援や合理的配慮について話し合った。</li> <li>連絡帳等を通して情報交換を行ったり、定期的に懇談を行ったりして、保護者との連絡を密にし、本人の願いも聞きながら個に応じた支援につなげた。</li> <li>スクールカウンセラー、学校生活支援教員や関係機関と連携し、効果的な支援や配慮について助言を受け、日常的な支援につなげた。</li> <li>計画的に異学年との交流学習を実施し、支援児童への理解を深めた。</li> <li>ユニバーサルデザインの視点を大切に授業の推進に努めた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援コーディネーターを中心に校内委員会や校内研修会を定期的に開催し、適切な指導・必要な支援の在り方について共通理解を深め、切れ目のない支援体制を充実させる。</li> <li>継続して関係機関、保護者と連携し、支援が必要な児童について、児童の願いも聞きながら、保護者との合意形成を図り、効果的な支援の在り方を探る。</li> <li>交流学習を行う機会をより多くもち、児童相互の理解を深める。</li> <li>ユニバーサルデザインの視点に配慮した授業づくりのアイデアを交流し合い、わかる、できる、楽しい授業づくりを行う。</li> </ul>
家庭・地域との連携	<p><b>●保護者、地域と連携した教育活動の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の自然・人材・文化・施設と学校とをつなぐ「ふるさと学習」の推進</li> <li>家庭と連携した主体的な学習習慣や生活習慣の充実</li> <li>PTAや人の目の垣根隊・地域住民と連携した学校・地域の教育環境づくりの推進</li> <li>学校通信・学級通信やWeb ページ等の学校情報の積極的発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍において例年と同様の活動は難しい中、今しかできない、今だからできる工夫を考え、地域の方の協力のもと「ふるさと学習」における活動の可能性を広げることに努めた。</li> <li>内容の改善を図った生活リズムカードを通して、家庭と連携しながら生活習慣や学習習慣の定着に向けた支援を行った。</li> <li>PTAや人の目の垣根隊と連携した登下校見守り等により、安全・安心の教育環境作りに努めた。</li> <li>児童の学校生活の様子を伝えるため、通信やWeb ページの積極的な発信を行った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の状況を、新しいことに挑戦する良い機会と捉え、従来の取組を見直し、地域の教育力を活かした新たな「ふるさと学習」の形を充実させる。</li> <li>主体的な生活習慣や学習習慣がより身に付くよう、生活リズムカードを効率よく活用する。</li> <li>今後もよりよい教育環境づくりを推進していけるよう様々な機関との意見交換の場を大切にする。</li> <li>今後も学校公開の場だけでなく、児童の学校生活の様子が見える通信やWeb ページの積極的な発信に努める。</li> </ul>
教職員の資質向上	<p><b>●強い情熱を持って教育に臨む教師</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>さらなる指導力向上を目指した積極的な授業研究と実践交流</li> <li>専門性向上に向けた校内研修と伝達研修の充実</li> <li>全教職員で取り組むワークライフバランスにつながる学校業務改善の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>模擬授業や日常の取組紹介や授業の工夫などを公開し、授業力を高めるための意見交流をし、教師の力量を上げることに努めた。</li> <li>実技研修や外部研修会参加者による伝達研修等を活かし、専門性の向上に努めた。</li> <li>全職員が業務改善を意識し取り組み、会議の削減や短縮、定時退勤日の実施を進めることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究テーマを意識した授業づくりに取り組んでいけるように、積極的に授業公開を行っていく。</li> <li>体験活動等の制限がある中での授業の工夫や取組を公開しながら、特別の教科道徳・外国語（活動）・プログラミング教育等様々な研修機会を通して、一人一人の力量を高めていく。</li> <li>ゆとりやワーク・ライフ・バランスにつながる業務改善をさらに進めていく。</li> </ul>

## 4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年は特に新型コロナ感染症対策による休校や行事の中止等大変な年度であったが、適切な取組がなされ改善の方策も示されている。</li> <li>・観点毎にアンケート結果に基づき、適切な評価がなされている。</li> <li>・昨年度との比較において、全体的に低い傾向にあるのは、行事の制限や地域交流の縮小に伴うやむを得ない結果といえる。</li> <li>・昨年度との比較という視点にとらわれず、数年に渡る比較という長期的視点でとらえていければよいと思われる。</li> <li>・最終年、東吉川小学校ならではの特色を活かし、子どもたちにとって一生の思い出となる学校づくりに取り組んでもらいたい。</li> </ul>
---

## 学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価

<p><b>【学習指導】</b></p> <p>○自己評価Bは適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対話により互いに高め合うことは、学校でないとできない大切な取組である。難しい状況ではあるが工夫し充実させてもらいたい。</li> <li>・読書は人の成長に欠かせないものである。今後も家庭、図書館等との連携を大切に読書（活字）に親しむ環境作りの継続をのぞむ。</li> <li>・タブレットが全児童にいきなり、学習意欲の高まりが期待される。効果が十分に発揮される個々に応じた指導方法に期待する。</li> <li>・先生方の努力が児童の成長に反映されることを期待したい。</li> </ul>
<p><b>【道徳・人権教育】</b></p> <p>○自己評価Bは適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も学校教育活動全体を通じた温かい関わり合いの中で様々な思いを知り、優しい心が育つよう豊かな感性を育ててもらいたい。</li> <li>・自分や他者を大切にすることをめざした東吉川小学校ならではの取組を事前事後の指導とともに今後も充実させてもらいたい。</li> <li>・ふれあい道徳を参観し、親子で熱心に学習に取り組む姿をほほえましく感じ、人権感覚を養う機会として継続させてほしい。</li> </ul>
<p><b>【生徒指導】</b></p> <p>○自己評価Bは適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめに特化したアンケートや面談等東吉川小学校が大切にしてきた取組のもと、今後も児童の心に寄り添う丁寧な対応を願う。</li> <li>・挨拶、基本的な生活習慣の確立は家庭の教育力に負うところが大きいが生活リズムカード等保護者との連携のもと取組の充実を期待する。</li> <li>・児童の日常も変化し、会話の機会も減少しているこんな時だからこそ気持ちのよい挨拶が意識できるような指導の継続をのぞむ。</li> </ul>
<p><b>【特別支援教育】</b></p> <p>○自己評価Bは（Aに近いと認識しているが）適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援を必要とする児童も増加傾向にあり、個に応じた適切な対応がのぞまれる。家庭や関係機関とも連絡を密にし、一人一人の個性を理解し尊重する取組を今後も大切に継続してもらいたい。</li> <li>・児童のニーズに応じたきめ細かい支援やユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業作りを今後も大切にしてほしい。</li> </ul>
<p><b>【家庭・地域との連携】</b></p> <p>○自己評価Bは（Aに近いと認識しているが）適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校通信が地域全戸に配布され、HPも随時更新されている。学校に足を運ばなかったが、学校の取組や児童の様子が大変よくわかった。</li> <li>・来年度、感染症対策考慮のもと、東吉川小学校ならではの地域の教育力を活かした「ふるさと学習」の充実を願っている。その際には、地域の教育力の一助になりたいと強く思っている。</li> </ul>
<p><b>【教職員の資質向上】</b></p> <p>○自己評価Aは適切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休校時から現在までの児童の心のケアをはじめ、児童の成長を願い様々な資質向上のための研修にのぞみ、情熱を持ち児童の指導に向き合っている姿に感謝している。</li> <li>・限られた時間の中で多様な業務をこなさなければならない時代。業務改善に取り組み、自身の生活も大切に一人一人の児童にゆとりを持って向き合ってもらいたい。</li> </ul>